

19

さまざまな防犯器具の使い方

防犯器具の種類

学校や地域の防犯意識の向上により、安全を確保するための防犯機器の導入が多く見られます。しかし、万が一の際に使用できなければ防犯機器の効果を期待することはできません。子どもや地域の安全・安心のため、防犯機器の正しい使用法を理解しましょう。

【防犯ブザー】

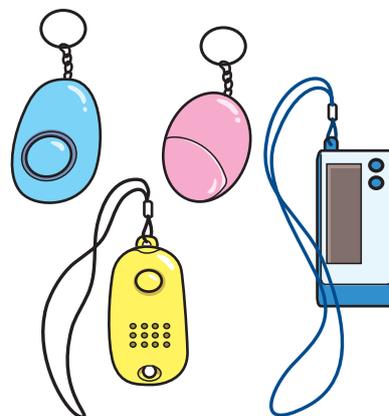
用途：

声を出せない危険な状況に遭遇した際、大きな音で相手を威嚇し、危険を周囲に知らせる。

使用法：

付属しているピンを引っ張って抜いたり、ボタンを押す。音を止める際は、抜いたピンを差し戻すか、スイッチをオフにします。

(詳細→4. 防犯ブザーの効果と留意点, p.18)



【防犯カメラ】

用途：

学校では正門や侵入が容易な箇所、地域では駐車場や駐輪場、商店や繁華街など、犯罪が起こりやすい場所に設置し、監視・記録をする。

効果：

防犯カメラの存在を周知させることで、犯罪を犯そうとするものに対して犯罪抑制の効果が期待されます。

留意点：設置した防犯カメラは、不特定多数の人物を撮影することになります。そのため、プライバシーの問題に配慮し、防犯カメラを設置していることを、ステッカーなどで周囲に知らせるなどの配慮が必要です。



規準表〈22a〉 防犯に関する機器や道具の特徴や特性、有効性などを理解している。

〈25b〉 学校で実施されている防犯の研修内容について理解している。

ねらい □□ ①防犯機器や防犯グッズの種類と機能の概要を知っている。

□□ ⑤防犯カメラの有効性について説明できる。

□□ ②学校で利用されている防犯に関する道具の使い方が説明できる。

19

【さすまた】

用途：

学校への危険な侵入者を校外へ追い出す。または確保し、児童生徒の安全を守る。

使用方法：

侵入者を壁やコーナーに追い込み、相手に対しさすまたをタスキようにかけて押さえこみます。（※図1）

相手の抵抗により、押さえ続けることが困難な場合は、膝の裏を押したり、すねを前から押したりして侵入者の動きを止め、倒しこみます。（※図2）

さすまたの使用に慣れるよう、様々な事態を想定した訓練を欠かさず行い、普段の訓練時から「体を押さえ続ける係」、「威嚇する係」、「転ばせて倒しこむ係」、などと係を決めておくと、いざというときスムーズに対応できます。

留意点：

使用する際は、なるべく大勢で立ち向かいます。一人で立ち向かうと、相手に奪われ、逆に凶器として使用されてしまう恐れがあり危険です。児童生徒を避難させることを最優先に行い、児童生徒に近づけさせないようにします。



さすまた

Column

さすまたは先がU字になっており、両手で掴まれ場合には、簡単に相手に奪われてしまいます。元々は江戸時代の捕物道具だったさすまたですが、「相手を捕まえる」ということより、「子ども達が逃げる時間を確保する」、「警察が来るまでの時間を稼ぐ」といったことを念頭に置くべきでしょう。また導入に際しては、警察などへ訓練の依頼をするとよいでしょう。

【催涙スプレー】

用途：

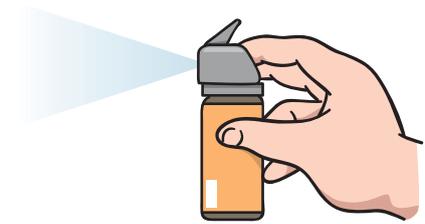
さすまたやネットランチャーと併用して使用し、児童生徒が避難する時間を確保する。

使用法：

相手の目に向けて噴射して使用する。目に入ると激しい痛みと涙が止まらなくなり、効果は30～40分は持続する。そのため、逃げる時間を十分に稼ぐことができます。

留意点：

微量でも目に入ったり、肌に付着したりすると涙が止まらなくなり、ひりひりとした激痛が走るため、使用する際は風向きや噴射口の位置を考慮し、誤って自分や周囲の人にかからないよう注意が必要です。目に入ったり、肌に付着してしまった場合は、水で洗い流し続け、もし違和感が残るようであれば医師に相談しましょう。



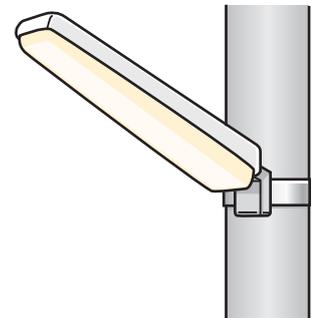
【防犯灯】

用途：

交通安全や犯罪の防止を目的に、夜間に暗くなる道路や防犯上不安がある場所に設置して、危険な死角や暗がりを作らないようにする。

その他：

防犯灯は住民からの申請や市区町村の判断により、必要箇所に設置されます。設置場所の状況によって、電柱へ架設する場合と専用の柱を立てて取り付ける場合があります。取り付けられる灯具は20W（ワット）の蛍光灯、白色灯が一般的です。最近では、視認性を上げるため、20W以上の水銀灯などを設置する地域もあります。



それぞれの防犯機器の特徴を理解しよう

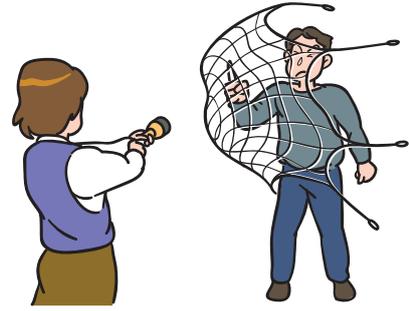
【ネットランチャー】

用途：

学校などへの危険な侵入者に対して使用し、避難の時間を稼ぐ。

使用方法：

相手に向けてボタンを押すと、網が発射されます。射程距離は2m～3.5m、狙いは相手の顔に定めます。刃物で網を切ろうとしても、もがけばもがくほど体に絡みついため、相手の動きを止めることができます。ネットランチャー1台につき1回しか発射することができないため、使用する際は、確実に命中させる必要があります。



ビデオ教材 (ビデオ→ 様々な防犯器具の使い方)

※ビデオを見て、防犯器具のそれぞれの特長をまとめてみましょう。

Column

催涙スプレーや特殊警棒、スタンガンなどは護身・防犯目的で販売されており、防犯機器販売店で誰でも買うことができます。しかし、これらを理由なく携帯し所持している場合は、軽犯罪法第一条2項「正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他、人の生命を害し、または人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具を隠して携帯していた者」に相当します。これらを所持・利用する際には十分な配慮が必要です。